

横浜ワールドポーターズ防災フェスで広報活動



自衛隊神奈川地方協力本部 横浜中央募集案内所（所長 狩野圭二等陸尉）は、11月15日（土）から16日（日）の2日間、横浜ワールドポーターズで開催された「防災フェス」に広報ブースを出展した。

ブースでは、災害復興支援活動を紹介するパネルや、陸上自衛隊武山駐屯地第31普通科連隊の支援を受け、1/2トトラックや偵察用オートバイなどの装備品を展示した。来場者からは「非常食や戦闘糧食は本当に食べているんですか」「この車両は何人乗れますか」「バイクに乗れてよかった」といった声が寄せられ、実際に見たり触れたりする体験を通して自衛隊の活動への理解を深める良い機会となった。

当日は、自衛隊のほか、警察、消防、海上保安庁、ドローン協会など多様な機関・団体もブースを出展し、地域住民の名の結果となった。

横浜中央募集案内所は「今後も地域に密着した広報活動に積極的に取り組み、自衛隊への理解促進に努めていく」としている。



大人気の南極の氷



パンフレットも無くなるほどの人気



うれしい訪問者（対象者）

えびな市民まつりで広報活動

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 明神雄雄3等海佐）は、11月16日（日）に海老名市で開催された「えびな市民まつり2025」において陸上自衛隊第4施設群の支援を受け、広報活動を実施した。

本まつりは、例年14万〜16万人が来場する地域最大級のイベントであり、当日は天候にも恵まれ、例年以上の盛況ぶりであった。

厚木募集案内所のブースでは、1/2トトラックと偵察用オートバイの展示が人気を集め、終日長蛇の列が途切れなかった。来場者は車両に乗車したり、バイクにまたがったりして記念撮影を楽しみ、「敬礼しよう」「ピースにしよう」などと声を弾ませていた。また、「このスイッチは何に使うのか」「どのメーカーなのか」と、大人が子ども以上に熱心に質問する姿も多く見られた。

「南極の氷」の触感体験も好評で、「本当に南極の氷？」「触っていいんですか」など驚きの声が上がった。手のひらに広がるシユワシユワとした感触に「これが南極の空気か」と感慨にふける来場者もいた。子供たちからは「ペンギンさんが歩いた場所なの？」「どうやって運んできたの？」といった質問が相次ぎ、終始にぎわいを見せた。

さらに、嬉しい来訪者もあつた。今年度、厚木募集案内所から受験した対象者が立ち寄り、「合格発表が近くて緊張感している」などと広報官と談笑する姿が見られた。

まつりの終盤、展示していた車両が帰路につくため一斉に動き出すと、来場者からは「頑張って」「今日はありがとう」と温かい声援が寄せられ、広報活動は盛況のうちに幕を閉じた。

厚木募集案内所は「今後も地域に根ざした広報活動を積極的に実施し、自衛隊・自衛官への理解促進に努めていく」としている。



展示車両は長蛇の列